

## 平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	商業科教育法A(Commercial Education A)	授業コード	K002501
担当教員名	岡部 勝成		
配当学年	3	開講期	前期
必修・選択区分	必修(商業)	単位数	2
履修上の注意または履修条件	日本の学校教育が変わろうとしています。その状況を商業教育を通して学んでほしいと思います。		
受講心得	講義には必ず出席してください。欠席すると模擬授業に多大な影響を及ぼします。		
教科書	商業科教育法—21世紀のビジネス教育— 吉野弘一著(実教出版) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 商業編』(実教出版)		
参考文献及び指定図書	適宜、参考図書を紹介します。		
関連科目	商業科教育法B		

授業の目的	高等学校教育を進めていく上で必要な法規について概略を知ると共に、教育活動を効果的・継続的に推進する為に教育目標の設定と教育課程編成の必要性について学習します。 次に「高等学校学習指導要領」に示す商業教育の具体的諸事情について研究します。 高等学校学習指導要領に示す商業教科・科目についてその内容の概要を理解します。
授業の概要	前半はプリントにより、教育を進める上で、必要な教育法規の講義を行います。 後半は「高等学校学習指導要領」商業編に従って講義、さらには模擬授業を行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：学校教育に関する法規等</b> 商業科教育法を中心とした法規を概説します。さらに、憲法にも言及します。	配布資料、質疑応答形式のディスカッション
<b>第2週：学校教育計画と教育目標</b> 商業高校教育における学校教育計画とその目標について、概説します。	配布資料、質疑応答形式のディスカッション
<b>第3週：教育目標の具現化と教育課程</b> 商業教育、とりわけに高等学校の商業科教育についての正しい認識と理解を得ること、当該教科の教育についての学習指導能力の基礎を培うことについて概説します。	配布資料、質疑応答形式のディスカッション
<b>第4週：学習指導要領における商業教育(1)必要性</b> 文部科学省による学習指導要領に基づいて商業教育の必要性を概説します。	配布資料、質疑応答形式のディスカッション
<b>第5週：学習指導要領における商業教育(2)意義</b> 文部科学省による学習指導要領に基づいて商業教育の意義を概説します。	配布資料、質疑応答形式のディスカッション
<b>第6週：学習指導要領・総説(1)改訂</b> 文部科学省による学習指導要領に基づいて商業教育の改定内容を概説します。	配布資料、質疑応答形式のディスカッション
<b>第7週：学習指導要領・総説(2)目標</b> 文部科学省による学習指導要領に基づいて商業教育の目標を概説します。	配布資料、質疑応答形式のディスカッション
<b>第8週：学習指導要領・総説(3)科目編成</b> 文部科学省による学習指導要領に基づいて商業教育の科目編成を概説します。	配布資料、質疑応答形式のディスカッション

<b>第9週：学習指導要領・改訂の経緯(1)課題</b> 文部科学省による学習指導要領に基づいて商業教育の背景や経緯、さらにその課題を概説します。		配布資料、質疑応答形式のディスカッション
<b>第10週：学習指導要領・改訂の経緯(2)具体的事例</b> 文部科学省による学習指導要領に基づいて商業教育の背景や経緯、さらにその具体的事例を概説します。		配布資料、質疑応答形式のディスカッション
<b>第11週：学習指導要領・改訂の趣旨と要点</b> 文部科学省による学習指導要領に基づいて商業教育の背景や経緯、さらにはその要旨ならびに論点を概説します。		配布資料、質疑応答形式のディスカッション
<b>第12週：学習指導要領・商業科の目標と組織</b> 文部科学省による学習指導要領に基づいて商業教育の目標と組織を概説します。		配布資料、質疑応答形式のディスカッション
<b>第13週：教育問題に係わる論作文の書き方</b> 商業科教育法を中心とした論文と作文の論理的思考に基づき基本的な書き方を説明します。		配布資料、質疑応答形式のディスカッション
<b>第14週：学習指導要領・商業に関する学科の内容(1)基礎的科目「ビジネス基礎」</b> ビジネス分野の基本的概念に関する項目を概説し、実社会との関連性にも言及します。		配布資料、質疑応答形式のディスカッション
<b>第15週：学習指導要領・商業に関する学科の内容(2)マーケティング分野</b> マーケティングに関する項目を概説し、実社会との関連性にも言及します。		配布資料、質疑応答形式のディスカッション
<b>第16週：期末試験</b> 15回までの講義内容を試験範囲とします。試験時間は60分、筆記用具以外はすべて持ち込みは不可とします。		配布資料、試験問題、解答例
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	教育法規の概略について理解できる。 学習指導要領の作成経緯を理解する。
<b>【知識・理解】</b>	学習指導要領が示す指導内容が十分理解できる。 教育課程の編成による教育計画の必要性を十分理解できる。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	教育論作文の書き方を習得し、教員採用試験受験への心構えを作ることができる。
<b>【思考・判断・創造】</b>	商業科教育法について論理的思考ができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			10点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	60点			
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点	10点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。			10点	
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	模擬授業実施のために作成する原稿、指導案、板書計画、発問書、練習問題、解答等の内容により加点します。
発表・その他 (無形成果)	授業のなかで、適宜質問をし、その解答に対して優れた学生には加点することがあります。また、模擬授業も内容によって加点することがあります。